情報処理安全確保支援士特定講習　講習情報

株式会社アイ・ラーニング

日本ＩＢＭインシデント・レスポンス研修　－プロが教えるＣＳＩＲＴ要員育成コース－

実施機関名	株式会社アイ・ラーニング		
講習名	日本ＩＢＭインシデント・レスポンス研修　－プロが教えるＣＳＩＲＴ要員育成コース－		
特定講習番号	21-006-020		
講習形態	リモート形式又は集合形式	定員（１回あたり）	12 名
受講日数	4 日間	受講時間	30 時間
受講料	440,000（円/税込み）		

対象分野 <ITSS+（セキュリティ領域）>	主な分野	セキュリティ統括	関連分野	セキュリティ監視・運用 脆弱性診断・ペネトレーションテスト

講習内容	インシデント発生時に、セキュリティ専門化によるエマージェンシー・レスポンス・サービスの支援を最大限に 活用することを含め、迅速な初動対応を実現、被害を最小限に抑え、適切な再発防止策を立案できる人財を養成することを 目的としています。講師は日本IBMのCSIRTチームを率いる講師陣が担当します。
具体的な到達目標	1.CSIRTの役割を理解し、CSIRT活動に必要な手順に基づきコミュニケーションができる 2.インシデント・ハンドリング・プロセスを理解し、各フェーズで必要な調査・判断、および対応ができる 3.CSIRTの立場で事例解析を実施し、的確な対応方針と初動調査の指示・立案ができる 4.外部からの攻撃に関して、IDS等のログを分析するなどの原因調査の手順を説明できる 5.内部犯行者等の対応に関して、主な留意事項について説明し実践できる
修得できるスキル	・CSIRTの役割 ・CSIRT活動に役立つコミュニケーションスキル ・インシデント・ハンドリング・プロセスの各フェーズで必要な調査・判断、および対応スキル ・初動調査の指示・立案 ・IDS/Proxyログの分析と原因調査 ・内部犯行者等の実践的な対応
講習の理解・習得のために推奨される実務経験	セキュリティ事故発生時の対応全体指揮、管理に実際的に携わる方 専門家によるエマージェンシー・レスポンス・サービスを受ける場合の相対する役割の方
講習の理解・習得のために推奨される知識・技術	ITセキュリティ一般の基礎知識がある方 (※ フォレンジック技術などのインシデント対応技術的スキルは前提ではありません)
技術・知識の到達度の把握・測定方法	・ディスカッション、グループワーク、ワークショップのいずれかを含む実習を毎日実施する ・ログ解析実習においては、実際に行われた攻撃ログを用いてPC操作実習を行う（２日目のみ） ・合格には、上記実習、グループワーク、発表の結果から講師が以下の認定基準の達成度を総合的に判断する
修了認定の判断基準	合格には、上記実習、グループワーク、発表の結果から講師が総合的に判断する （講師の判定基準は、４日間の研修を通して以下の5項目の到達度を確認する） 1.CSIRTの役割を理解し、CSIRT活動に必要な手順に基づきコミュニケーションができる 2.インシデント・ハンドリング・プロセスを理解し、各フェーズで必要な調査・判断、および対応ができる 等
修了認定基準に満たない受講者への措置	・講師による不足ポイントの指摘と助言 （やむを得ず一部の研修を欠席となった場合は、次回研修の同一単元の補講受講を認める）
受講者に対するサポート体制	演習課題の各段階において、合格に満たない懸念のある受講者に対し、講師・補助講師で認識合わせを行った上で、個別に理解度を確認するヒアリングを実施し、補足資料の提示や補足説明を行う。
講習実施施設所在地	東京都中央区日本橋箱崎町4-3 国際箱崎ビル
ホームページ	https://www.i-learning.jp/products/detail.php?course_code=CD040